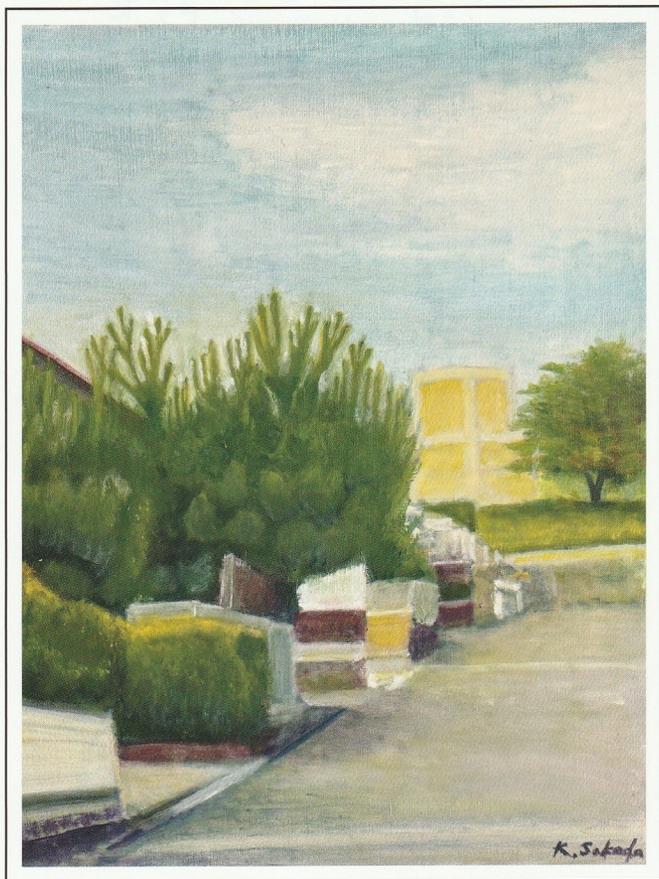


ヒロシマ

HIROSHIMA



2026(上)

表紙

天にのびるみどり

迫田 勝明

絵に込めたのは、先ず清々しい景色と天に向かっ  
てのびと聳そびえる気持ちでペンクラブを  
楽しみみたいなという思  
いです。

◆題字……………大木 茂  
◆ギャラリ―……………椎木 剛

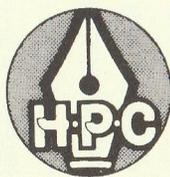
---

へ

ん

HIROSHIMA

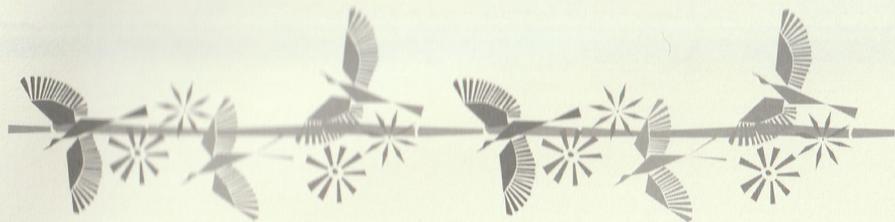
2026(上)



広島ペンクラブ

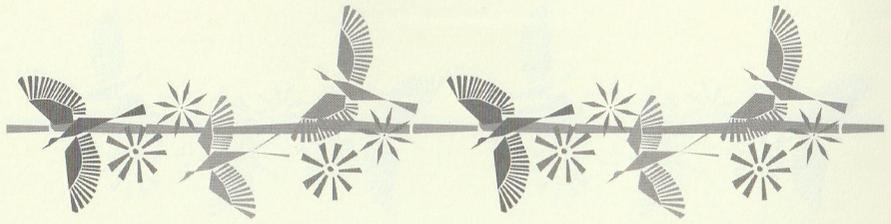
<https://hiroshima-pen.com>

---

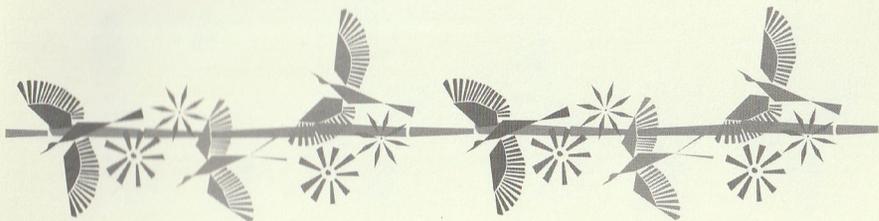


## 《目次》

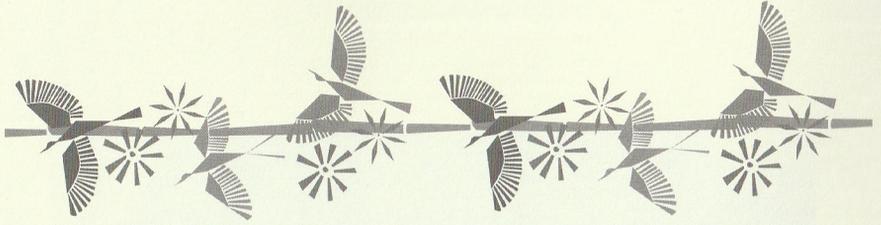
浅田 護	雪は匂ひて花冴ゆる津軽 (五)	9
足立 柳子	人として	10
石崎 文子	天は二物を与えず	11
伊藤 秀輔	高齢者のウォーキング	12
稲田 公子	「中将姫」への旅	13
井原 俊彦	焚火	14
今田 進	台湾と日本語	15
袁 葉	ミスマッチ	16
大下 和美	What the world needs now is love	17
大谷 育平	カシミヤセーターの誕生	18
大浜 和憲	私の小学生時代	19
岡本 忠文	For the future II	20
沖野 恵子	緑の植物に癒(嫌)される	21
落田 克二	鬼門の八月は嫌いだ	22
梶 杏子	赤い背中	23
梶矢 文昭	今は昔、広島県の蝶の話	24
木矢 克造	羽アリとの戦い	25
熊野 良樹	盗賊相果候(上)	26
児玉 孝雄	わが人生の一里塚(その三)	27



坂本 善子……目、耳はふたつに、口ひとつ……	28
迫田 勝明……広島と平和……	29
塩田 恭子……パンドラの匣 <small>はし</small> が開くとき……	30
世木田寛子……託されゆくもの——線香花火——	31
多田多延子……ロイヤルアスコットと英国がくれた二つの宝物……	32
田淵 佳恵……夢の彼方……	33
玉井田 泰……ガセネタ？雑学真偽の程は？（三）……	34
富沢 佐一……男の涙……	35
小林いづみ……招待席 子どもの心に種をまく ——読み聞かせとストーリーテリング……	36
内藤 文雄……中央書店創業（八）鈴木三重吉展・児童書フェア……	38
西村 哲郎……一万八千二百五十日……	39
新田 和雄……ゴギ・コギとノラド……	40
二宮 基樹……最後の挑戦……	41
原田 佳子……勲章問答……	42
渡上 尚……冷たい風が通り過ぎた暑い夏（二十三） シーズン二 エピソード8 転職希望の青年……	43
福田 康彦……「理性のゆらぎ」……	44
穂高 健一……私の道楽……	45



円 卓子……………伊藤秀輔さんの「私の鶏肋集 自分史」を読んで……………	46
松本 洋二……………『論語』 雑感(14) 君子は争ふ所無し……………	47
丸子ようこ……………眠れぬ夜……………	48
三上寿磨子……………出会いの縁に育てられた日々……………	49
三宅 恭次……………ERこぼればなし⑤……………	50
望月 澄男……………空 空……………	51
森田 昌樹……………寂れた商店街……………	52
本郷 松柏……………「地球生物平等論」を世に問う……………	53
山口 隆子……………晩夏の宮島へ……………	54
山下 江……………ドイツニークルーズ顛末記2……………	55
山本 和子……………〈詩〉The resurrection……………	56
吉中 康磨……………天皇皇后両陛下二度目のご訪問……………	57
吉村 淳……………もうひとつの被爆電車物語「広島 市電 街景色」……………	58
渡辺 玲子……………広島駅の変遷・七十七年間の思い出……………	59
天野ひと恵……………くちなしの花・母との五年……………	60
矢尾井 優……………イメージ戦略……………	61
小野 由子……………絵本の船出……………	62
平木 滋……………台所からの風景……………	63
米門 公子……………内なる力……………	64



シヨートエッセー「私の宝物」……………65

運営委員会だより……………69

事務局だより……………72

編集人記……………80

広島ペンクラブ規約……………81

次号原稿募集のご案内……………84

会員及び定期購読者募集のご案内……………85

招待席

インタビュー

二十景



## 子どもの心に種をまく

—読み聞かせとストーリーテリング

ひろしま子どもの読書活動団体等ネットワーク協議会代表幹事  
安田女子大学非常勤講師 小林 いづみ

—プロフィールを拝見すると、若い頃からずっと絵本に関わる仕事をなさっていますね。きっかけはどんなことだったのでしょうか？

幼い頃から母がよく絵本を読んでくれていたおかげか、本が大好きでしたから、将来は本に囲まれてできる仕事をしたと考えていました。小学六年生の時に、児童文学者の石井桃子さんが書かれた『子どもの図書館』を読んで、児童図書館員という仕事があることを初めて知りました。石井さんたちの「子どもの本研究会」が、子どもの本のリストを作っておられることも分かったので、リストを頂きたいと手紙を書いたのがきっかけで縁ができました。中学生の時に、石井さんと松岡享子さんが「子どもの本研究会」をひとつの母体として、「東京子ども図書館」を設立され、私の夢が具体的になるかなと希望を持つことができました。

—アメリカの図書館でも仕事をされたそうですね。夫の転勤でコロラド州のデンバーに住んでいた時、公共図

書館でボランティアをしました。「アメリカではどこに行っても図書館があり、驚いた」と図書館員に話したら「図書館があったから、建国以来どんな辺地でも人々は情報や知識を得て、自分の考えを持つことができた。だからこそアメリカの民主主義が成立してきたのだ」と胸を張って答えました。当時の日本との違いを思い、ショックを受けました。

—図書館や公民館、小・中学校などで長く絵本の読み聞かせやストーリーテリングをなさっていますね。ずっと続けていて良かったと思われるのはどんな時ですか。

やはり、子どもたちの反応ですね。読書は自分一人の営みですが、読み聞かせやストーリーテリングをすることによって聞き手からさまざまな反応をもらい、私自身の中でそのお話が一層豊かなものになります。

例えば「こねこのチョコレート」は、四歳のジェニーが弟の誕生日プレゼントに買っておいいたチョコレートを誘惑に負けて自分で食べてしまうお話です。聞いていた幼稚園の年長



本講の「子どもと図書館養成講座」で、小島市子ども図書館を結ぶボランティアを務める小林いづみさん

さんがすっかりジュエニーになりきって泣いてしまったことがあります。子どもの素直な反応を見て、自分一人で読んでいた時には分からなかったこの本の良さを改めて教えてもらいました。

本に出合ったとき、子どもたちの中で何が起きるかはい計り知れません。ですが、未来に向かって「種をまく」ことになると信じるのができるのは、すごく幸せだと感じています。

—読み聞かせとストーリーテリングの違いは？

読み聞かせでは、絵本を見せながら読みますが、ストーリーテリングは、語り手がストーリーを全部覚えて子どもたちの顔を見ながら語ります。この場合、絵本のように絵はありませんから子どもたちは自分で絵をイメージしながらお話を聞きます。ストーリーテリングを聞いた後で、子どもたちが描いた絵を見せてもらったことがあるのですが、それともうさまざまで、子どもたちの想像力がすごいなと感じました。

—広島市子ども図書館で、「子どもと本を結ぶボランティア養成講座」の講師もなさっていますね。どんなこととお話しされるのですか。

今年度は、おはなし会の絵本の選び方やプログラムの立て方がテーマです。絵本選び

は大切で、二十年、三十年と読み継がれてきた本をお勧めしています。「古いのでは？」と言われることもあります。読み継がれてきた本の力はすごくて、子どもたちは食いついてきてくれます。いくら世の中が進歩しても、子どもの本質や成長の仕方は変わらないのです。

「プログラムの立て方」は受講生をグループに分け、ワークシヨップ形式で、おはなし会のプログラムを立てていただき、発表してもらいます。

—子どもの頃から大切にされている絵本はありますか？

私が幼かった頃、母が読んでくれた『ちいさいおうち』（バージニア・リー・バートン文と絵 石井桃子訳）です。家が主人公の地味なお話で、三、四歳の子どもが十分に理解できる内容ではないのですが、繰り返し読んでもらったのを覚えています。ぼろぼろになっていますけど、今でも大切に持っています。

—今日ありがとうございます。（米門公子 記）

こばやし・いづみ

一九五九年、神戸市生まれ。慶應義塾大学文学部図書館情報学科卒業。大阪市立図書館に勤務の後、渡米。帰国後、(財)東京子ども図書館に勤務。現在は評議員を務める。呉市在住。

呉ストーリーテリング研究会代表、子どもと本を結ぶ安芸灘ネットワーク代表として、子どもと本を結ぶ活動に長く関わる。絵本の翻訳にも携わり、訳書に『テイリーのねがい』『こねこのチョコレート』（共にこごま社）などがある。

☆問い合わせ Eメール△kobayashi@mx4.dkline.jp>